

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

施策名 (小項目)	河川改修・砂防施設整備	コード	01-03-01	作成者	都市整備課長
		役職		氏名	樽家真佐人
		電話			64-1833

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	市民を災害から守り、安全で安心して暮らせるよう、河川改修等を計画的、継続的に実施していく	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	本市では、これまで台風による集中豪雨や高潮により大災害を受けましたが、国・県・市及び地域住民が一体となって災害復旧に取り組み、一定の成果をあげることが出来ました。しかし、まだ多くの箇所が自然護岸や老朽石積等が未整備であることから、今後、国・県の協力を得て、計画的な河川整備を図り、再び災害を受けることのないよう万全の対策をとることが必要である。また、急傾斜地や土石流危険渓流のうち、法の未指定地については新たに区域指定を受け、整備する必要がある。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>県管理河川については、年次的な改修を県に要望していく。</li> <li>市管理河川の年次的・計画的な整備促進</li> <li>急傾斜地崩壊対策事業については、県事業として整備が進められているが整備済みの箇所でも老朽化に伴う改修が必要な箇所もあることから、危険度の高い箇所から対策工事などの実施を県に要望する。</li> </ul>	

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業 評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業費(単位:千円)						優先順位 その他	
			H17		H18		H19			
			直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費		
1 県河川維持管理事業	C	樋門等管理委託事務	維持管理	216		434				
		吉井川下流改修促進協会負担金	内部管理	29		29				
		ダム所在市町村全国協議会負担金	内部管理	0	4,068	0	1,468			
		河川維持管理要望事務	維持管理	0		0				
2 河川改良事業	B	河川改良事業	ハード事業	60,699	9,247	52,839	8,466			
3 河川維持管理事業(備前)	B	河川維持管理事業	維持管理	14,376	3,162	7,348	3,867			
4 河川維持管理事業(日生)	B	河川維持管理事業	維持管理	2,500	1,764	2,483	3,300			
5 河川維持管理事業(吉永)	B	河川維持管理事業	維持管理	1,248	2,335	1,842	643			
6 急傾斜地崩壊対策事業	C	急傾斜地崩壊対策事業県工事負担金	内部管理	9,134		6,376				
		急傾斜地崩壊対策要望事務	内部管理	0	947	0	2,249			
7 災害復旧事業	B	災害復旧事業	ハード事業	228,179	9,018	26,958	1,950			

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)	H17	H18	H19
	347,141	120,252	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
国・県・市	それぞれの管理区間との連携	連携を密にすることにより、より効果が生まれコスト縮減にもつながる。

市民意識調査による施策の重要度・満足度

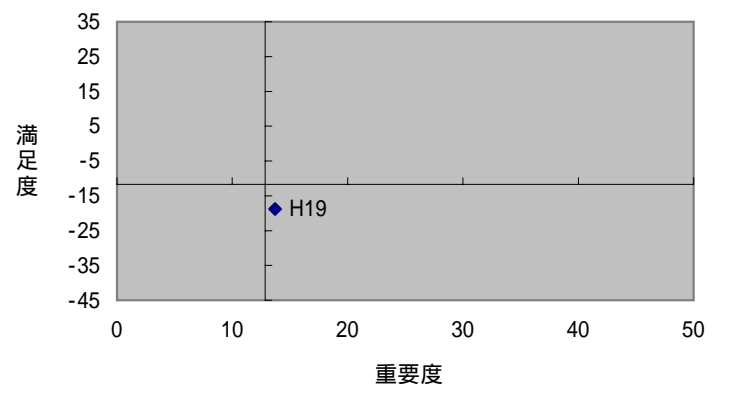
調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)	13.7		
満足度(%)	-18.8		

<見直し領域>  
その施策や事業が必要か否かの検討が必要

<維持領域>  
現状の方向を継続

<検討領域>  
その施策や事業の存続の検討が必要

<強化領域>  
内容等を見直し、市民満足度を高める事業を行う



調査結果に対するコメント、市民の反応等  
 調査対象でない施策の場合は、市民の反応等  
 市民要望に十分対応できていないため、この数字は止むを得ないのかと思う。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明
		H17	H18	H23	H28		
1 河川改良箇所数	目標	件	20.0	20.0	20.0	20.0	前年度より多く
	実績	件	15.0	16.0			
	達成率	%	75.0	80.0			
2 市民からの要望への対応(修繕箇所数)	目標	件	60.0	60.0	60.0	60.0	前年度より多く
	実績	件	60.0	40.0			
	達成率	%	100.0	66.7			
3 ボランティア参加団体数(道路の指標と重複)	目標	件	29.0	29.0	40.0	50.0	参加団体数を増やす
	実績	件	28.0	28.0			
	達成率	%	96.6	96.6			
4	目標						
	実績						
	達成率	%					

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	現在の厳しい財政状況の中では止むを得ない。	2	成果指標から、市民の要望に十分答えられなかった。
2 事業構成の適当性	3	負担金、委託金が多いのではないか	3	計画的な河川整備が必要と思われる。
3 施策の有効性	4	市民からの要望に答え災害に強いまちづくりを勧めるため有効	3	市民意識調査からして、重要度に対する満足度が低い。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	各種負担金等を見直すとともに、現下の財政状況を考慮し費用対効果を十分考え事業を実施すること。また、協働のまちづくりを進めるためボランティア参加団体を増やす工夫を考えてほしい。		市民を災害から守り、安全で安心して暮らせるよう、要望に対して整備していかなければならない。	
二次評価者コメント	役職 産業建設部長 氏名 三好 保 毎年、市民要望に対して、予算が少なく市民から苦情を頂いている。20年度は、重点的に配分していただき要望に応えたい。			平成20年度 予算の方向性  重点配分